



りんご特報 No.2

令和8年3月17日

JA中野市園芸課

JA中野市りんご・もも部会

展葉期から黒星病の早期感染拡大が心配されます。散布は樹全体にしっかりかかるよう徹底してください。薬剤散布時は、温暖・無風の日を選び幹や枝に十分にかかるように散布しましょう。

(調査地区：平岡)

ふじ	平年	R8 (予想)	R7	R6	R5	R4
発芽日	3/30	3/26頃?	3/28	4/2	3/23	4/5



【第2回 定期散布】

*散布時期は目安です。生育状況により前後する可能性があります。

散布時期	展葉 2~3 枚目頃 (4/5~11 頃)	【定期散布】 散布日 ____月 ____日 () 散布量 _____ℓ (14 日前、4 回)
散布薬剤	水 100ℓ 当たり 展着剤 (ハイテンパワー) 10ml ユニックス顆粒水和剤 47 50g	
対象病害虫	黒星病、(うどんこ病)	
散布量	10a 当たり：300ℓ	
注意事項	①【うどんこ病対策】コロナフロアブル 400 倍を加用する。	

カイガラムシ類の発生密度が年々増加しています。

*「第1回定期防除」を徹底して下さい(特報No.1 参照)

- なるべく無風・好天の日に、樹全体に万遍なく散布する。
- 薬剤がよくかかるよう、重なり枝は解消する。
- 粗皮削りを行ない、散布死角(害虫の越冬場所)がないよう努める

次面もご覧ください

【黒星病 発生生態】

・越冬：

被害落葉、芽りん片、枝病斑で越冬する。（量的に重要なのは被害落葉）被害落葉上で冬期間中に偽子のう殻が形成、発芽期頃から飛散し感染が始まる。感染温度は 15～20℃。潜伏期間は約 10 日。

・感染：

一次感染は開花前後がピークとなり、落花 20 日後頃まで続き、その後病斑上に形成された分生胞子により二次感染が続く。菌糸の発育適温は 16～24℃で、分生胞子の発芽適温は 15～25℃である。

・感染条件：

降雨と密接な関係があり、雨が多い時または葉が濡れている時間が長い時に感染しやすい。温度 10～20℃で感染しやすく 1～2 週間で病斑が現れる。盛夏期は高温乾燥のため一時停滞するが、9 月以降から再び発生が多くなる。

【腐らん病対策】

腐らん病の被害樹（枝）が増えています。腐らん病の胞子は 1 年中飛散しており、摘果痕、収穫痕、剪定の切り口などの傷口から感染するため、年間を通じての対策が必要です。

- ・ 病徴
 - ・ 罹病部は淡褐色～赤褐色
 - ・ 表皮は湿り気を帯び、指で押すと弾力がある
 - ・ 特有の発酵臭
 - ・ 表面に黒色の小粒を生じる
- ・ 防除対策
 - ①剪定の切り口の保護（トップジン M ペースト等の塗布）
 - ②休眠期防除（トップジン M 水和剤、ベンレート水和剤、石灰硫黄合剤）
 - ③あら摘果終了後、収穫後、薬剤散布（トップジン M 水和剤など）

次回発行予定：3/31

問い合わせ先：園芸課 23-3933